

學制改革の上より見たる幼稚園

日白幼稚園主 和田 實

今日我國の學制を改革すると言ふことは、誰にも異存のないことであるが、然らばその改革は如何様に施さるべきかといふと、その一部の改善を叫ぶ人もあれば、又全般について大改革を企圖する人もあるといふ風はその理想とするところの異なると同様に、學制改革案は十人十色の趣きを見るのである。従つて今日まで幾度か企だてられ、幾度か實施されんとして而もその英斷を見ずに終つたことは、要するに當路者の理想の一致しなかつたことに歸するわけ、我教育界のために甚だ惜しむべき次第であります。今度の文部省の高等學校改革案も、多數の人の經驗を根據として、彌々實施することになつたといふのが、これは政友會内閣として甚だ慶賀すべきことで、吾々政友會に無關係の者と雖もこの斷案に對しては敬意を表するものであります。

申すまでもない、教育は世界人類の進歩と共に駁

々として停止する處を知らざるものであります、然らばと言つて、人間の一生を教育に費すといふわけにはゆかぬ、人生には限りがあり、而も人の能力には限りがありますからして、この無限大に向上進歩する教育を、何時までもつゞけてゐるといふわけにはゆきません、自から其處には一定の年限を與へなければなりません。

かの軍隊教育でも、完全にやるのは年限が長くかゝるからと言つて、十年も二十年もかゝるといふことは出来ませんし、又廿才の徴兵年齢を早くして十四才から十五才位に於て徴兵しやうといふわけにもゆかない、自ら其處には人間の活動する時期は標準として、教育期間を定めなければならぬのであります。

この學校教育も同様で、限りある人生に、限りなき教育を、ある年限に縮めて、一定の期間内に於て、而して一定の年齢者に教育するのでありますから、

學校を卒業したからと言つて、直ちに其者は教育を了つたものと見做すことはできません。學校出のほや／＼位、世の中に於て間に合はないものはないわけて、學校を卒業するともに更に實社會に於て、實際的に活動し得るまでには、自ら相當の年限を以てその活動方面の智識と經驗とを修得しなければなりません。

すると、この學校教育に於て已に短からぬ年限を要し、更にまた實際の修得に於て相當の年限を要するとすると、この二つの過程に於て人は随分長い年限を費さねばならぬこととなります。故に私は、たとひその者をして高等教育を受けさせるにしても、二十五や六、甚だしいに至つては三十才内外の年齢にまで、學校教育に於て費やされるには、卒業後社會的活動に入るに及んで非常な不利益を蒙らねばならぬので、學校教育は、たか／＼丁年に達するまでに了つて仕舞ふやうにあり度いと思ふのであります。社會的に有爲に活動し得る年齢に達して、なほ且つ學校教育を受けてゐるといふことは、今後の我國の進歩發達の上に於ても非常なる不利益と言はんければなりません。今日我國の高等教育、即ち大學

の課程を了るまでには、實に二十五才以上三十才までもかゝるのでありますが、せめてこれを二十才内外に於て切りあげることの出来るやうに改革されたものだと思ひます。が併し乍ら、誤解してならぬことは、如上の學年短縮論は、一般の教育についていふのであつて、目的とする處が學者にあり、専門的學科を研究せんとする如き人にあつては、更に大學校に入りて研究するもよく、この種の研究年限こそ、三十才が四十才でも、悠々年を惜しまず研究に費すが好いのでありますが、その他の學術の一般を知らしめるところの、いはゞ高等常識教育にありては、十年以内で於て修得せしめること、敢て難事ではないのであります。たとへそれが文科とか理科とかの、専門學科に於ても、今日の教育程度に於ては、優にそれまでの年限で了ることが出来ます。故に私は如上の方針を以て、我學制改革の上に、その年限を短縮されんことを希望するのであります。已にこの高等教育に至るまでの年限を茲に定めて、而して其上で、更にこの方針の下に、小學校、幼稚園の學制を改革すべく斷案を下さなければならぬのであります。この系統を無視して、單に小學校は小

學校だけで改革しやうとか、中學校は中學校といふ標準だけを以て改革に反對する、といふが如きは、甚だ教育系統を浸害するものといはんければなりません。

且つ小學校の教育費といふものは、地方の經濟の自治團體の過半を占めて、負擔にたへないと言つてゐる地方もある位で、小學校をやたらに膨脹させることは考へもてありません。

小學校を上に擴張して、大きい子供を一年小學校に餘計置くことと、小さい子供を一年早く教育することとの二種の方針について、その何れが經濟かと申しますと、大きい子供を教育する方が、その費用は小さい子供を教育するよりも經濟であります。無論完全なる教育を目的とする時には、何しても小さい時からこれを始めなければなりません。國家の教育行政から考へれば、この小さい方は暫く措いて、大きい子供に小學校を一年上に擴張する方が有効であります。

私の理想からいふと、小學校の就學年齢はもう一ヶ年おそい方が好いと思ふ、而して五六歳の兒童に

は、幼稚園入學を奨勵して、私立のこの幼稚園を盛んに各町村に設けしむるがよい。而して小學校教育の準備教育を此期限内に施すがよろしい。これを設けるだけの資力のない貧弱なる町村には慈善的のものを奨勵してやらせるやうにしたいものである、而して小學校に入つてから數年間、職務の年限を公の費用で教育するとなると、經濟の上の非常に節約することが出来ます。かくして小學校を了つたあとを中學校、大學校といふ風に漸次に進んでゆくやうにすれば、今日より更らに効果を見るであらうし、又富裕の町村であれば、二三聯合すれば中學校程度のものをも設置することが出来やうと思ひます。

又完全なる教育を望む人達には、幼稚園、小學校、中學校、大學といふ風に特種教育機關を有する一定の學校へ入學せしめて、これだけの過程を踏ましめるがよろしい。普通一般の國民にありては、幼稚園から小學校を了て、更に中學、大學と進むやうにし幼稚園は私立を奨勵し、小學校は地方の自治團體でやるか若くは官費となすやうにしたらと思ひます。

人間の初等教育は、實に幼稚園より初まるものであるが、現在幼稚園教育は、教育系統の中には入れ

られざる状態で、小學校教育を以て、はじめて教育を開始されるものと思つてゐる人が多い、即ち満六歳になつて、いろはのいから一二三の一から教育してかゝつてゐるが、これは人間六ヶ年間の教育を無視してゐるものであつて、相當の費用をかけて教育すると雖も、子供はその教授に飽きて緊張した興味を感じてこれが學科に勵むに至らず、甚だしいに至ると、四十分の教授時間を二十分にして切上げるといふ状態でありませぬ。

故にこの満六歳に達した位の兒童に對しては、その年齢に適したる處の教育を、幼兒教育に通曉せる人達に任せてやらせるがよいと思ふ、而して小學校をして今少し程度の高いものにするがよろしい。又その學齡を伸して中學校にまで進むもよい。何れにしても、學齡期を、上に擴張するがよいのでありませぬ。

ところで、この時にあたつて、幼稚園の保姆は現在の状態で満足すべきではありません。保姆の資格は小學令に於て小學校準教員の資格あるところのものでよいことになつてゐるが、この準教員といふもの

は、小學校に於ても、責任を以てその組を受持つことは出来ないものでありまして組を受持つてゐるところの正教員の下に屬する所のものでありますが、かかる人が、幼稚園の保姆として教育の任に當り得るか何うか、一寸考へても明かな問題で、言ひ換へれば、幼稚園の教育の方が、小學校の教育よりもより至難でこそあれ、より容易である筈はないのであります。幼稚園の先生は、小學校に行つて先生となれないやうな、そんな低級なものであつてはならないのであります。少なくとも、中等教育の程度は立派に了つた人であらねばなりません。ところがこの幼稚園に於ても保姆の資格が、そのやうに向上して來ると、勢ひ多數の幼稚園を設置する上に於て、實現しがたい問題だといふ人があるが、決してさうでなく、一つの組を擔任する教員の下に、準教員のある如く、一つの責任ある保姆は正教員の資格者であらねばならぬがその下に就く人は、準教員の資格ある人で結構であります。

終りにのぞんで、幼稚園教育の、如何に小學校教育よりも、兒童のためにその初等教育として効果あ

るかといふに、幼稚園に於ては直感主義の教育を根據として教育してゐるに反し、小學校に於ては、直感主義の教育が實際に於て行はれてゐないのであります。この直感主義の教育は、その經費が非常にかかるのであります、實行するに困難であるからであります、幼稚園にありては、比較的安易にこれを行ふことが出来ます。たとへば、小學校の生徒に理科の教授をするに當つて、熱のために物體が膨脹することを頭に入れさせやうと思つても、餘程の困難を感じるのであります。これは物その物を直接に見ないために、勢ひ想像に訴へねばならないからで

初等教育としてこの實物について直感せざる、いはゞ文字の上で言葉の上で教育する位、困難で、而も効果のないものはないのであります。従つてそれを知らしめるために幾多の試験をして見せて、初めて得心させるのであります、その費用と時間と勞力を考へると、寧ろ、幼稚園の行ひ易さには及ばない、幼稚園に於ては、つねに直感によつて、諸現象を経験させるのでありますから、實にこの幼稚園では、理論に資すべきところの諸現象の實際について、十分知らしめることを得て、初等教育の効果を増進す

るものであります。故に理論としての理科は小學校で教育されるとして、その材料となるところの實感、幼稚園に於て教育される方が、時間に於ても手數に於ても費用に於ても、よほど簡易にして効果をあさめることが出来るのであります。

右は、幼稚園に於て當今の學齡期一ケ年を取り入れて教育する方針であるが、これと反對に、現在の小學校の年限の半分を中學校にゆづり、その下の半分を、幼稚園と結びつけて、八歳から九歳までにして丁つて、純粹なる幼兒教育を施設するもよろしい。而して九歳か十歳から十四五歳までの間を學齡として、義務教育を施すもよろしい。何れにしても、幼兒教育は私立が責任をもち、小學校は公費にするといふことは、國家の教育費の負擔をより軽くするものであります。

一席の座談て意を盡さぬところが多いのは讀者諸君に對して恐縮の外はない。今書き改める暇もないので此まゝで印刷に附することにした。御宥恕を乞ふ。和田生。